



第18回（2021年度）東北大学男女共同参画シンポジウム

「男女共同参画：男性の立場から」

パネルディスカッション

母性愛神話と愛着理論をめぐって －父親に何が出来るか－

神谷 哲司

東北大学 大学院教育学研究科
kamiya@sed.tohoku.ac.jp

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University
11th Dec 2021, in Sendai, Japan



1

じこしょうかい



- 専門分野：発達心理学
- テーマ「親・夫婦の発達」
学位論文：「親役割観の形成と変化に関する研究
－育児期家族を中心に－」
- 結婚(2005年)以来ずっと別居婚。
2016年4月から同居。
- 長女：2009年4月生
☞同年10～11月育児休業取得
(生後6～7ヶ月)
- 長男：2012年11月生

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University
11th Dec 2021, in Sendai, Japan



2

父親をめぐる言説 (ただし、20年くらい前?)

【保守派】

- お父さんの出番は子どもが大きくなってから…
- こまごまとした世話は母親で、ダイナミックな遊びは父親が…
- 進化の過程から考えて、母親と父親の役割は異なる。

【革新派】

- 父親と母親の違いは、妊娠・出産、哺乳のみであり、それ以外は変わらない。
- 「母性愛」は社会的に構築されたものであり、子育てにおいて父親より適性が高いというわけではない。

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



3

母性愛神話とは

- 母性：女性が生来的に有している子育ての適性（→現代では育児性，養護性）
- 母性愛神話：女性は母性を有しているのだから，子育ては女性の方が適性があるとする考え方。
- 三歳児神話：子どもは三歳までは，常時家庭において母親の手で育てないと，子どものその後の成長に悪影響を及ぼすとする考え方

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



4

「母性愛神話」のルーツ

- 日本文化的な「母性信仰」 (大日向, 1988)
- J.Bowlby(1951)の「愛着理論」
⇒乳児にとって「mother figure」が必要
；「3歳までは母の手で」と曲解
- Klaus & Kennel(1972)のボンディング研究
⇒出産直後の「心理的臍帯」；母子同室制

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



5

スタート：素朴な疑問から

- 父親と母親の「本性」を進化的の観点から明らかにする研究は、それとして…
- で、生物学的な説明はともかく、「父親はどうすればいいのか」という価値判断に寄与する知見はないのか？
↓
◎子どもにとっての「母親」と「父親」の機能は代替不可能なものなのか？

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



6

乳児の泣き声に対する知覚・認知

- 女性を対象とした乳児の泣き声の知覚(足立ほか,1984)
⇒泣き声の弁別について、特に医療的援助を目的とした助産科学科学生よりも初妊婦の方がリスク条件差に対し高い弁別力を示したことについて、妊娠に伴う生理・心理学的変化が関連していると考えられる。
- じゃあ、父親は？（神谷,2002）
学生、新婚期、初妊期、育児期の男性を対象とした、足立ほか(1984)と同じ枠組みの研究。
⇒父親の泣き声知覚と育児行動に関連が見られたほか、初妊期においても、泣き声の弁別に応じた泣き声の原因の類推を行っていた。
↓
男性においても、妊娠期より、泣き声の持つ火急性に対する認知的枠組みが形成されていることが同え、父親であっても妊娠期からの子育てのコンピテンスを有する可能性が示唆された。

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



7

結論：子育てに男も女もない

- 三歳児神話に科学的根拠はない（厚生省, 1999）
- 分娩直後の母子のきずな（ボンディング）に長期的な影響はない。（Svejda, et. al., 1980）
- 女性がただ女性であるというだけで、必ず「より良い親」であるというのは軽率な一般化に過ぎない。（Radin,1994）
- 愛着理論で必要なのは「応答的で安定的にかかわる養育者」であり、「母親」である必要はない(大日向, 2000)
- むしろ、「男は仕事、女が仕事と子育て」を維持する社会構造の問題（柏木,2003）
- 子どもの育ちという観点からは、親の性別の問題よりも、「たくさんの大人」がいることの方が重要(神谷, 2019)

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



8

それでも、「子育て」における男と女

- 「授乳（母乳育児）」の子どもにとっての意味と母乳神話／あるいは、「母乳ファシズム」（伊藤・西,1989）。
- 現象としての「モノトロピー(monotropy)」：子ども自身が特定の主要な愛着人物に愛情を寄せる指向性の存在。いわゆる「ママじゃなきゃいや」
- 主養育者(現代ではほぼ母親)のGatekeepingとCoparenting(加藤ほか, 2012, 2014)

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



9

以下のスライドは、ディスカッション用に準備したものです。

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



10

親の生物学的性差と養育行動

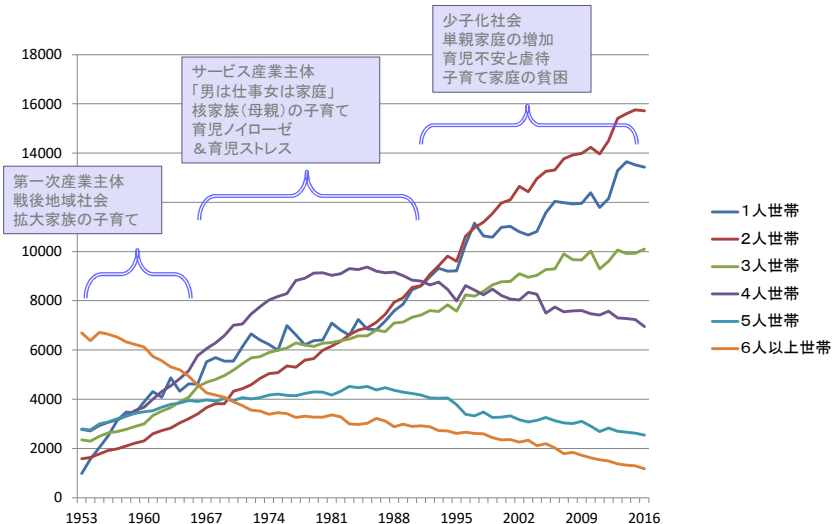
- 「男性ホルモン」と「女性ホルモン」は、男女とも双方を有している（カプラン&カプラン,2010）。
- 生物学的なメカニズムとしての女性ホルモンと養育行動との関連（Gordon et al.,2010）
 - オキシトシンの量(OT)は、父母ともに産前より産後に増加しており、いずれの時期も父母差はなく、夫婦間相関が見られていた($r=.32\sim.42$)。
 - 一方、母親のOTは情緒的ななかかわりの頻度と正の相関がみられたが($r=.33^*$)、父親では見られず($r=.08$ n.s.)、父親では、刺激的なかかわりの頻度との間に正の相関が見られていたが($r=.30^*$)、母親では見られていなかった($r=-.22$ n.s.)。

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University
11th Dec 2021, in Sendai, Japan



11

世帯数の変動と社会変動 (神谷,2019)



平成28年国民生活基礎調査より作成(単位:千世帯)

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University
11th Dec 2021, in Sendai, Japan



12

「男はしつけ、女は受容」の神話(古川,1974)

• もう一つの「性別役割分業」

「厳しくしつけるのが父親で、優しく包むのが母親だ」



古川(1974)のPM理論による子どもの認知する父母役割

P機能：目標達成行動(performance)

M機能：集団関係維持行動(maintenance)

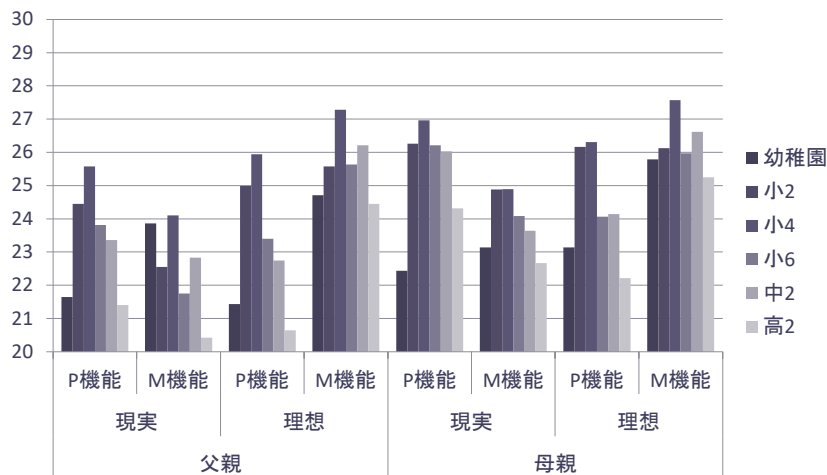
The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



13

「男はしつけ、女は受容」の神話(古川,1974)



The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

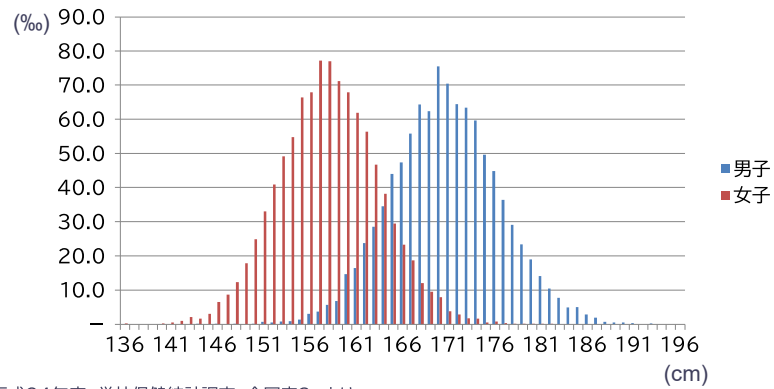
11th Dec 2021, in Sendai, Japan



14

それでも、男女の「性差」が気になる人に

性差をどのように考えるか？：17歳の身長分布



平成24年度 学校保健統計調査 全国表3 より
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001046936&cycode=0>

The 18th Symposium of Gender Equity in Tohoku University

11th Dec 2021, in Sendai, Japan



【文献】

- 足立智昭・村井憲男・岡田斉・仁平義明. (1985). 母親の乳児の泣き声の知覚に関する研究. 教育心理学研究,33,146-151.
- Bowlby,J. (1951). *Maternal Care and Mental Health*. W.H.O.
- カプラン, P.J.,& カプラン, J.B.(著) 森永康子(訳) (2010). 認知や行動に性差はあるのか. 北大路書房. Caplan,P.L., & Caplan,J.B. (2009). *Thinking Critically About Research on Sex and Gender*,(3rd, Ed.). Pearson Education, Inc.
- 古川綾子 (1974). 両親のリーダーシップ行動認知に関する発達心理学的研究 : 子どもからみた理想像と現実像の変化について. 教育心理学研究,22,69-79.
- Gordon,I., Zagoory-Sharon,O., Leckman,J.F., Feldman,R. (2010). Oxytocin and the development of parenting in humans. *Biological Psychiatry*,68,377-82.
- 神谷哲司 (2002). 乳児の泣き声に対する父親の認知 発達心理学研究,13,284-294.
- 神谷哲司 (2019). 子育て環境の社会状況的变化. 本郷一夫・神谷哲司(編著) 子ども家庭支援の心理学. 建帛社. pp.62-71.
- 柏木恵子 (2003). 家族心理学 東京大学出版会
- 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司 (2012). 母親の gatekeeping に関する研究動向と課題—夫婦ペアレンティングの理解のために—. 東北大学大学院教育学研究科研究年報,61(1),109-126.
- 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司 (2014). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と信頼性・妥当性の検討 心理学研究,84,566-575.
- Klaus, M. H., Jerauld, R., Kreger, N. C., McAlpine, W., Steffa, M., & Kennell, J. H. (1972). Maternal attachment: Importance of the first post-partum days. *New England Journal of Medicine*, 286(9), 460-463.
- 伊藤比呂美・西成彦 (1989) パパはごきげんななめ. 作品社 (※1992年に集英社文庫より再販)
- 大日向雅美 (1988). 母性の研究 川島書店
- 大日向雅美 (2000). 親子関係. 伊藤裕子(編著). ジェンダーの発達心理学. ミネルヴァ書房, pp. 120-139.
- Radin, N. (1994). Primary-caregiving fathers in intact families. In Gottfried,A.E., & Gottfried, A. W. *Redefining families*. pp. 11-54. New York. Plenum.
- Svejsda, M. J., Campos, J. J., & Emde, R. N. (1980). Mother-infant "bonding": Failure to generalize. *Child development*, 51, 775-779.

【参考資料】

- 神谷哲司 (2015). 親としての発達. 柏木恵子・平木典子(編) 日本の親子 : 不安・怒りからあらたな関係の創造へ. 金子書房. pp.107-126.
- 神谷哲司 (2020). 男性は本当に育児に向いていないの? 沼山博・三浦主博(編著) 子どもとかかわる人のための心理学—保育の心理学, 子ども家庭支援の心理学, 子どもの理解と援助への扉— 萌文書林. pp245-248.
- Klaus,M.H. & Kennell,J.H. (1976). *Maternal-Infant Bonding*. The C.V. Mosby Co. 竹内徹・柏木哲夫(訳) (1979). 母と子のきずな. 医学書院.